

議決のあらまし

平成28年6月定例市議会に市長が提案した議案は追加上程を含め55件（予算案3件、条例案10件、その他42件）、諮問1件でした。

そのうち、「岡山市市税条例等の一部を改正する条例の制定」など4件の議案については、一部の議員から反対がありましたが、すべての議案を原案可決・同意しました。

これにより、補正予算額は、一般会計4億7,519万円余、特別会計300万円、事業会計328万円余を合わせた4億8,148万円の増額となり、予算総額は、5,507億133万円となりました。

●● 可決した主な議案 ●●

議決結果は市議会ホームページに掲載しています。

■平成28年度岡山市一般会計補正予算（第1号）

	主な事業	予算	内容
予 算	熊本地震対応経費	1億1,307万5,000円	熊本市等における災害救助活動及び避難所運営等に係る職員派遣、災害用備蓄物資の補充等に要した経費
	B型肝炎ワクチン定期接種事業	9,577万円	B型肝炎ワクチンの定期接種化に伴い、生後1歳に至るまでの子どもに定期接種を実施
	岡山型 ^{※1} ヘルスツーリズム拠点化事業（仮称）	4,700万円	^{※2} ハラル対応による東南アジア方面からの観光客受入体制整備及び地域観光資源等を組み合わせた、岡山型ヘルスツーリズムを官民協働で創出
	多子世帯等保育料利用者負担軽減事業	1,208万円	年収約360万円未満相当の世帯は第2子を半額、第3子以降を無償化（ひとり親世帯は第1子を半額、第2子以降を無償化）。それ以外の世帯は県制度を活用し、3歳未満で第3子以降を半額

保育の需要に対して保育の受け皿が不足していることから、国において、保育所等の職員配置について特例が設けられたため、本市の条例についても基準を改正する。

■岡山市児童福祉施設の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定

■岡山市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定

■岡山市幼保連携型認定こども園の学級の編制、職員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定

（主な内容）

- 1施設につき配置する保育士は最低2名とされているところ、朝夕等の児童が少数となる時間帯について、1名は子育て支援員研修を修了した者等一定の知識・経験を有した人材も活用可能とする。
- 幼稚園教諭、小学校教諭、養護教諭の免許保持者を、配置する職員の3分の1を超えない範囲内に限り、保育士に代えて活用可能とする。

●● 陳情の結果 ●●

採択した陳情（1件）

- 熊谷川及びその周辺の斜面に崩落した土砂の撤去について

不採択とした陳情（3件）

- 岡山市立美術館の設置について
- 市が直ちに原状回復を実施するための行政代執行に関する条例、規則を制定すること等について
- 岡山市議会議員の政務活動費の領収書等の議会ホームページでの公開等について

5月臨時市議会

平成28年5月18日に開会し、市長から専決処分[※]の報告を受けた後、平成28年度岡山市住宅新築資金等貸付事業費特別会計補正予算（第1号）など5件（予算案1件、その他4件）の議案を審議し、全会一致で原案可決、同意並びに承認して閉会しました。

※用語解説 ※1【ヘルスツーリズム】

自然豊かな地域を訪れ、そこにある自然、温泉や身体に優しい料理を味わい、心身ともに癒され、健康を回復・増進・保持する新しい観光形態

※用語解説 ※2【ハラル】

「許可された」を意味するアラビア語。「ハラルフード」はイスラム教の教義で食べることが許可された食事

みなさんと市議会

各区 区別計画調査特別委員会を設置

各区の特色を生かした計画にするためにも、各区選出の議員による特別委員会を設置し、地域からの視点で調査していきます。

北区区別計画調査特別委員会

委員長 和氣 健 副委員長 田尻 祐二
 委員 鷹取 清彦 小川 信幸 東原 透 森田 卓司
 吉本 賢二 赤木 一雄 難波満津留 二嶋 宣火
 松田 隆之 柳井 弘 則武 宣弘 松田 安義
 河田 正一 田中のぞみ 鬼木のぞみ 楠木 忠司
 森山 幸治 太田 栄司

中区区別計画調査特別委員会

委員長 三木 亮治 副委員長 中原 淑子
 委員 浦上 雅彦 松島 重綱 林 敏宏
 林 潤 下市このみ 高橋 雄大

東区区別計画調査特別委員会

委員長 成本 俊一 副委員長 岡崎 隆
 委員 山田 正幸 竹之内則夫
 竹永 光恵 小林 寿雄

南区区別計画調査特別委員会

委員長 磯谷 和行 副委員長 東 毅
 委員 宮武 博 田口 裕士 藤原 哲之
 千間 勝己 川本浩一郎 磯野 昌郎
 福吉 智徳 羽場頼三郎 柳迫 和夫

長期構想

(平成28年度から37年度の10年)

「都市づくりの基本目標」「将来都市像」を定め、その実現に向けた「都市づくりの基本方向」を明らかにする

取組を具体化

長期構想の実現

前期中期計画(平成28年度から32年度の5年)

○分野別計画

全市的な視点で政策分野ごとの施策展開を体系的に整理

○区別計画

各区の特徴的な課題に対応し、区の特色を生かしたまちづくりを進めるため、重点的に推進すべき施策や市民生活に密着した施策を抽出して記載
 [主な内容：区の現状と課題、区づくりの将来目標、区づくりに係る施策の方向性]

個人質問の質問時間がわかりました！

代表質問のない定例会市議会での個人質問の質問時間を変更しました。

6月定例会市議会から、会派ごとの持ち時間制(所属議員1人当たり20分×^注会派所属議員数)とし、議員個人の質問時間を、10分、20分、30分から選べることにしました。

注) 正副議長、議会運営委員会正副委員長、監査委員は除く

常任委員会審査から

審査の過程で特に議論となった点について、委員長報告の要旨を掲載

全文は市議会ホームページに掲載しています。

総務委員会

■個人市民税に係る

医療費控除の特例

委員●市民への周知はどのように行っていくのか。

市●税務署とも連携を取りながら、広報紙、ホームページ、チラシ等を通じて事前の周知をしっかりしていきたい。

■マイナンバーカード

交付通知書の未配達

委員●問題解決まで2カ月半もかかっている。職員の認識が甘いのでは。

市●郵便物の確認方法など、取り扱いについて本庁・区役所と意思疎通をはかり、統一的な方法を考えていきたい。

保健福祉委員会

■保育料の利用者負担軽減

県と市の負担割合

— 県の財源を活用した軽減額の

うち、他市町村に対する県の補助は2分の1であるのに対し、本市は3分の1となっている —
 委員●本市だけ補助率が低いが、どう考えているのか。

市●平成27年12月に県に抗議した。本市だけが政令指定都市ということで、他市町村と区別されることには納得していないので、引き続き、県に要請していきたい。

■保育士の高い離職率

委員 ● 保育士の確保に向けて、処遇をどう改善していくのか。

市 ● 勤務条件の改善、事務の効率化、簡素化を図ることに加え、保育士が責任を重く感じ、負担となっている部分については、組織として子どもや保護者と接していくといった、園全体の保育力のレベルアップを図ることが必要であり、そのための研修等を充実させていきたい。

環境消防水道委員会

■消防団員等が戸別訪問を実施

委員 ● 住宅用火災警報器の設置・普及の推進に向け、戸別訪問する消防団員への意識付けは。
市 ● 消防団員宅の設置状況調査を行い、意識を高め、9月からの戸別訪問に備えたい。

■重要給水施設の耐震化

委員 ● 水道事業新総合基本計画の終期となる平成38年度までに、全ての重要給水施設の耐震化を図るべきではないか。

市 ● 重要給水施設のうち、医療施設等を優先して耐震化する。避難所となる学校には応急給水ができる体制を整えている。

委員 ● 重要給水施設は、全てが早期に耐震化されると市民は思う。医療施設等を優先するなら、避難所とのさびわけが必要では。

市 ● 重要給水施設の考え方など、

市民に納得してもらえる表現を検討する。

経済委員会

■岡山型ヘルスツーリズム拠点化事業（仮称）

委員 ● 真庭市、吉備中央町と連携に至った経緯は。

市 ● 真庭市では、湯原温泉の一部の宿泊施設が^{*3}ムスリム対応に取り組み、他の温泉施設にも拡大したいとしている。

また、吉備中央町では、同町産の米粉を原材料としたハラル対応のパン製造工場を、平成28年4月に稼働させていることから、連携中枢都市圏形成に向け一緒に取り組んでいる両市町に働きかけた。

委員 ● 本市のどこに拠点をつくり、どのような活動をするのか。

市 ● 例えば農業・農村体験では観光農園での果物狩りなど、郷土芸能では御津・建部地域の獅子舞などが考えられる。

委員 ● 検証をしっかりと行い、経過等を報告してもらいたい。

建設委員会

■災害が起きる前に対処を

— 平成26年7月の集中豪雨で被害があった、市道伊島町二丁目吉宗線の下水道河川局関係の道路災害復旧工事 —

委員 ● 今回、復旧工事をしてい

る箇所より南側の笹ヶ瀬川に面した歩道部分も、詳細な点検をして、危険箇所があれば事前に対処しておく必要があるのでは。

委員 ● 災害が起きてからでは人命にかかわる上、復旧には多額の費用が必要になる。

市 ● 復旧箇所周辺についても、道路関係部局としっかり連携をとって、こういった災害が起きないように対処していきたい。

市民文教委員会

■高島小学校の校舎を増築

— 児童数急増のため校舎を増築し、教育環境の改善を図る —

委員 ● 今後も同一中学校区内の小中学校間で児童数の差がある傾向が続くなら、小学校区の線引きの見直しを検討したほうがよいのでは。

市 ● 難しい面はあるが、見直しをまず検討しなければならないとは考えている。今回は、地元の町内会等の意見を聞きながら検討したが、最終的に校舎を増築することになった。

委員 ● 小中学校間で児童数の差があることは、中学校区での教育を考えた場合に懸念が残る。

委員 ● 子どもたちにとって本当に何がよいのか、中学校区全体のバランスを考えながら進めてもらいたい。

在職議員表彰・感謝状

全国市議会議長会、中国市議会議長会及び全国温泉所在都市議会議長協議会から、次の方々表彰と感謝状を受けました。

■全国市議会議長会

□議員在職25年以上表彰

羽場頼三郎 氏

□議員在職10年以上表彰

小川 信幸 氏

森田 卓司 氏

□感謝状（相談役）

宮武 博 氏

□感謝状（理事）

宮武 博 氏

■中国市議会議長会

□議長6年以上表彰

宮武 博 氏

□議員在職12年以上表彰

森田 卓司 氏

■全国温泉所在都市議会議長協議会

□感謝状（副会長）

宮武 博 氏